

「川づくりは人づくり」 ～市民による川づくり 遠賀川夢プラン～

直方川づくり交流会

はじめに

私たちは、一級河川である遠賀川の流域で生活しています。この川は日本の中でも特別な体験を乗り越えて現在は、まちの中を滔々（とうとう）と流れています。

私たちは、この遠賀川を誇りに思っています。しかしながら、太古の昔から農耕文化が栄えてきた流域は、石炭産業という日本のエネルギーを支える地域へと変わってきました。そしてメラメラと燃える炎のような勢いで川やまちは発展していったのです。

それから100年、石炭から石油への時代に代わり、それと同じくして人々の心も川も元気を無くしていきました。川には背を向けて存在すら感じず、川は「危険」「汚い」と言われる時代になっていました。

20年程度前、その遠賀川を見直す機会が訪れました。行政も川づくりに対する転換期で「住民参加型の川づくり」の話があり、また、元建設省の関正和さん著書の「大地の川」との出会いがありました。思いっきり頭を殴られたような表現出来ない感動がありました。今からでも自分達で出来ることを考えて行動してみよう。住民や行政が一緒になって夢を語りながら、責任を感じながら次世代の子ども達に伝えよう!と1996年「直方川づくり交流会」を発足しました。男性11名、女性11名、そして、国土交通省（当時：建設省）の人達、直方市、福岡県の人達等、約30名で毎月の勉強会の始まりです。そこで「50年後の遠賀川夢プラン」を提案しようという事にな



記念すべき「第1回直方川づくり交流会」



C.W.ニコルさんの課外事業

り「ああでもない、こうでもない」「夢だから、夢だから」と言いながらも、発足当初は、治水・利水に関する知識不足を痛感し、川に関する基礎資料を基に、スイスの川の視察勉強に行ったり、日本各地の川に行って視察勉強したり、C.W.ニコルさんの課外事業を計画したりと「川づくりは人づくり」をスローガンに、大変忙しく、慌ただしく活動を展開し、早20年が経過しました。

交流会の取り決め

「楽しく継続した活動」を基本に、3つの原則・7つのルールを胸に活動を行ってきました。

I. 自由な発言

- ① 参加者の見解は所属団体の公的見解としない。
- ② 特定個人・団体のつるしあげは行わない。

II. 徹底した議論

- ③ 議論はフェアプレイの精神でおこなう。
- ④ 議論を進めるにあたっては実証的なデータを尊重する。

III. 合意の形成

- ⑤ 問題の所在を明確にしたうえで合意形成をめざす。
- ⑥ 現在係争中の問題は、客観的な立場で事例として取り扱う。
- ⑦ プログラムづくりにあたっては、長期的に取り扱うものと及び短期的に取り扱うものを区分し、実現可能な提言をめざす。

川づくり、人づくり ～主な活動～

1.「遠賀川 夢プラン」の提案

市民自らの手で望ましい遠賀川の将来像を考え、地域住民に親しまれ、愛される川になるよう今後の川づくりのあり方について関係行政機関に積極的に提案していくため、交流会で将来の川への夢についてとことん議論を重ね、交流会での議論はこれまでに200回を越えました。

交流会メンバーは、他の川での視察勉強や川に関する資料等々を基に川に対する理解を深め、議論を重ねるごとにその議論『夢』は熱をおび、1998年3月には「遠賀川夢プラン」の第1次提案式の開催に至るまでこぎ着けました。この遠賀川夢プランの提案は、これまでに「第4次案」まで提案し、行政と協働した川づくりは、ついに2006年に夢が実現しました。提案によって新たな市民の憩いの場に生まれ変わった直方の水辺は、2009年度には「遠賀川直方の水辺」が土木學會デザイン賞最優秀賞を受賞しました。今後も、常に次ぎの50年先を見すえながら「遠賀川 夢プラン」を提案し続けたいと考えています。

2. 未就園児から大人までの河川環境教育活動（育つ次世代）

現在、活動拠点である地域防災施設遠賀川水辺館において、土日は基より、平日も近隣の小中学校の総合



実現した「遠賀川 夢プラン」直方の水辺の風景（2006年完成時）

学習としての「河川環境教育」活動を展開しています。

本活動は、交流会発足当時からの活動であり、未就園児から大人までを対象に、環境保護や水問題などに関する教育活動を通して、市民の川への親しむ心を育み、次世代を育てる活動として展開しています。

また、九州発として2001年には「リバーチャレンジスクール」を開講（年6回開講）し、毎年多くの子ども達が川での遊び方だけでなく、川の事故の防ぎ方も学んでいます。

この活動を通して、

I. 活動を通して育った小中高生が成長し、各大学で川に関する活動を展開するまでに発展。

II. 各世代に分かれた5つの活動グループが発足

◆ YNHC: 学校の垣根を越え水問題や生物多様性に取り組む全国の中高生のネットワークの活動の場

◆ JOC/遠賀川ユースリーダー: 災害復興支援や次世代の活動のサポートを目的とした大学生等のネットワークの活動の場

◆ めだかの学校: 生物調査、水質調べ、野鳥観察、遠賀川を描くなど小学生の活動の場

◆ キッズLNC: 遠賀川周辺の自然環境を活かして未就園児の親子で遊びを体験する活動の場

◆ SWEEP: 遠賀川を中心に地球環境の保全活動等を行う大学生等の活動の場などの、河川環境活動等の輪の広がりにも繋がっている。

さらに、子ども達の頑張りが実り、遠賀川で育った次世代が、ボランティアスピリット賞の「コミュニティ賞」を皮切りに、「ブロック賞」「全国賞」と段階全ての賞を受賞。さらには、毎日新聞エコメッセージコンペディション エコ・アクティビティ部門で「優秀賞」、国際ソロプチミストアメリカ・ヴァイオレットリチャードソン賞の「日本南リジョン1位・アメリカ連盟賞」、福岡県教育文化表彰を受賞するまでに至りました。



遠賀川 夢プラン



リバーチャレンジスクール



YNHC



めだかの学校



JOC



キッズLNC



JOC/遠賀川ユースリーダー



SWEEP

3. 次世代の世界水フォーラムでの活躍

3年に1度開催される「世界水フォーラム」や「世界子ども水フォーラム」に遠賀川で育った次世代の小中高生が、2006年「メキシコ大会（メキシコシティ）」、2009年「トルコ大会（イスタンブール）」、2012年「フランス大会（マルセイユ）」、そして、今年2015年4月に開催された「韓国大会（大邱市）」に連続して日本代表に選抜され参加し、世界の舞台で遠賀川での活動等を堂々と報告するなど、育つ次世代が世界に飛び出し貴重な経験を積んでいます。

また、今後も世界に羽ばたく次世代及び遠賀川を担う次世代等を育むため、新たな取り組みとして、2014年より遠賀川流域の子ども達が、1年間を通じて「遠賀川のスペシャリストになろう」との目標を掲げ、遠賀川の歴史や水生生物、水辺の植物、野鳥などの多様な視点から体験する活動を通して学ぶ「遠賀川流域子ども水フォーラム」を発足。身近な環境に関するテーマを自ら設定し、フォーラムにおいてお互いを高め合う活動も

開始しました。この活動で学んだ中高生が今回の韓国での世界水フォーラムに参加しました。

さらに、1年間の締めくくりとして成果発表会を開催し、自ら考え、学んだ子ども達とその成果を発表する場では、英語も交えながら河川環境問題等の発表を行い、交流会メンバーを含め、聴講者等々が感銘を受けた次第です。



【2006年】メキシコ
メキシコシティ



【2009年】トルコ
イスタンブール



【2012年】フランス
マルセイユ



【2015年】韓国
大邱市

世界で羽ばたく遠賀川で育った次世代

4. 川に関する様々な情報の配信

直方の遠賀川を市民にしっかりと見つめてもらうことを目的に、季刊紙「遠賀川夢だより」を1998年4月に創刊。直方川づくり交流会の活動内容をはじめ、「遠賀川夢プラン」に関する意見募集や川に関する行政の情報、環境学習、防災学習等、川に関する情報を詰め込んだ季刊紙としてこれまでに第35号まで発刊しています。

掲載内容は、交流会メンバーにより編集し、なるべく専門用語等を使用せず、わかりやすい誌面になるように心がけています。

本季刊紙の発刊により、交流会の発足当初から「河川環境教育」の実践は行ってきたが、年々、誌面を見た流域の小学校からの問い合わせや、総合学習の一環として「河川環境教育」が取り組まれるようになってきており、2014年は、流域の小学校等に対して全42回の河川環境学習を実践してきているところです。



季刊紙「遠賀川夢だより」

これまでの活動の足跡

「川づくりは人づくり」をスローガンに活動を開始し、20年が経過しましたが、これまでの活動、特に、次世代の頑張りが人々の心と川の元気を取り戻す源になっています。

これまでの活動の足跡を振り返ってみると。

- I. 前記したとおり、次世代の人づくりによる各世代に分かれた活動グループが5グループ発足。
- II. 活動を通じて遠賀川で育った小中高生が各大学に進学し、水環境分野を専攻している。また、様々な川に関する活動を新たに展開している。
- III. 遠賀川の活動を通じて育った次世代の大学生がインターンシップとして遠賀川河川事務所の就業体験を希望し、これまでと逆の立場（見方）での住民と行政の関わり方等について就業体験で経験を積んでいる。
- IV. 小学校の総合学習として河川環境学習が小学校等の年間事業にも組み込まれ定着して来ており、近年は、年間平均35回の河川環境学習を実施してきている。
- V. 発足当初から活動地周辺の河川清掃を実施。当初は交流会のメンバーがほぼ主体で清掃活動を実施していたが、現在は、毎月月末の日曜日に実施する清掃活動に必ず参加する市民が増加している。
また、清掃活動の実施と併せて河川環境に関する「研修会・勉強会」を開催するようになり、研修会等を重ねることに住民の防災意識も高揚し、新たな地域のネットワークの広がり呈している。
- VI. 住民と行政と一体となった「川づくり」の先進事例として、九州各地から視察も増えることにより、川に関する各団体等との交流の輪が拡大している。また、住民参加型の川づくりの普及にも繋がっており、「川なかま」の増加が交流会として新たな活動の活力になっている。
- VII. これまでの活動が実り、活動支援として、毎月2回発行される直方市の市報に活動情報等が掲載されるようになり、活動への参加、活動の輪が広がっている。

さいごに

これまでの「直方川づくり交流会」の活動は、あっという間の20年だった気がします。その中で次世代の頑張りが人々に元気を与え、強いては交流会の元気に繋がっているところです。今後も、今回の国土交通大臣賞

の受賞に甘んじることなく、遠賀川の恵みに感謝し、これまで以上に地域の元気が生まれるよう、たえず「50年先の遠賀川への夢」を見すえ、引き続き「ああでもない、こうでもない」と議論し、次世代にこの遠賀川を残して行きたいと考えている次第です。

今後の活動としては、

- I. 『現在の活動を次世代に繋げる・引き継ぐために活動の継続【～継続は力になり、地域の糧になる～】』
- II. 『これまでの川に関する勉強で学んだ「水ぎわ」の大切さ（何事にも「きわ」が大切：故福留脩文氏から享受）を伝えるため、活動のスローガンに掲げている「川づくりは人づくり」の更なる実践』

具体的には、次世代のチームリーダーの育成。●街を創る ●森を創る ●観光を創る等々、川づくりを通じて様々な分野で「夢」を描ける次世代の育成に力を入れたいと考えています。

さらに、世界に繋がる目を向けるための取り組みも実践して行きたいと考えているところです。

さいごに、これまで活動にご支援頂いた方々に心から感謝を申し上げるとともに、直方川づくり交流会の活動の良き理解者であり、全面的に支援を頂いてきました故向野敏昭前直方市長に心より感謝申し上げます。「ありがとうございました。」



現在の直方市の水辺風景（遠賀川）



直方川づくり交流会

直方川づくり交流会